

エイズ・性感染症対策基本方針に基づく取り組み・今後の計画等

<委員名> 伊藤 俊広 委員

視点		基本施策	平成30年度及び令和元年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<p>○仙台医療センター健康まつり(年1回、平成30年度は11月5日土曜日開催、令和元年度は11月2日を予定)で宮城野保健所との共催による地域市民へHIV知識と検査啓発活動(例年1000名程度参加あり)している。</p> <p>○ホームページ「東北AIDS/HIV情報ページ https://www.tohoku-hiv.info/」において基礎知識等の情報提供を行っている。</p> <p>○宮城県HIV/AIDS講演会(年1回、H30年は8月25日土曜日開催)では毎年スタッフが発表や座長等担当し、情報提供を行っている</p> <p>○東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議(年2回、うち1回他県実施)で最新情報の共有と現状報告をしているほか、東北HIV看護研修、看護師ケアカンファレンス(実地研修)、東北HIV薬剤師・心理福祉連絡会議、東北HIV臨床カンファレンス、HIV/AIDS包括医療センター出張研修等を通じ、ブロック拠点病院として行政・拠点病院医療者を中心に情報提供を継続している。</p> <p><学校における感染症教育></p> <p>○H30年4月24日、12月13日仙台市立仙台工業高等学校にて阿部憲介研究教育主任が学生200名対象に保健講話を実施、今後も同講話を実施予定。</p> <p>○学校薬剤師への情報提供を継続。担当:阿部研究教育主任</p>
		学校における感染症教育	
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	<p><平30年度・令和元年度 継続して実施></p> <p>○仙台市HIV迅速検査会(年2回)にHIV/AIDS包括医療センタースタッフを派遣。陽性結果の場合など医師が説明を担当しており、受検者不安を軽減させ、確実な医療機関受診に繋げている。また、当院カウンセラーも継続して参加しているところで、受検者が陰性の場合であっても、話を聞く機会を設けることができおり、検査体制の充実に寄与していると考えている。</p> <p>○ホームページ「東北AIDS/HIV情報ページ http://www.tohoku-hiv.info/」でHIV検査情報提供</p> <p>○仙台医療センター健康まつり(年1回)での仙台市民へHIV検査の知識普及と情報提供</p> <p>○当院感染症内科を受診しHIV検査を行う患者に対しては、医師・看護師・カウンセラーが予防やHIV知識について説明を行っている。</p>
		相談・カウンセリングの充実	
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	<p><平30年度・令和元年度 継続して実施></p> <p>○HIV/AIDS包括医療センターによる患者中心のチーム医療を実践。</p> <p>感染症内科外来:月曜日・木曜日・金曜日に加え、令和元年5月より水曜日1曜日増設した。継続通院患者数約180名、全科対応しており当科担当看護師(HIVコーディネーターナース)が患者各々の治療・生活等把握し、通院継続できるようコーディネートしている。</p> <p>診療時間帯にはカウンセラーとMSWが常駐し、患者が気軽に相談できる環境を整えている。</p> <p>診療曜日ごとの担当薬剤師が診療に同席し、患者の治療内容や生活状況を把握し、随時服薬支援を行っている。</p> <p>○血友病薬害HIV患者に対して関節可動域等を調べるリハビリ検診会をH28より実施、30年度は9月1日、令和元年度8月31日に開催予定。患者個々の状態に合わせて日々できる運動を理学療法士が提案している。</p> <p>○地域連携室ケースワーカー(HIV専任ケースワーカー含)と感染症内科看護師との連携によるきめ細かい福祉サービス支援を実施。</p> <p>○H30年12月よりHIV/AIDS包括医療センター内に新たに「HIV長期療養支援室」を設置し、地域に出向き医療者連携と患者状況聞き取り等を始めている。</p> <p>○検査会などでHIV陽性者があつた場合は、保健師との連携を密にし、初診対応を行っている。</p>
		生活全般に亘る支援	

<委員名> 児玉 栄一 委員

視点		基本施策	平成30年度及び令和元年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	学校教員に対する啓発や知識の提供・ハイリスク者への情報提供
		学校における感染症教育	
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	仙台市休日検査への協力 ・性感染症としてはHIVよりもクラミジアや梅毒(報告されていない症例もあるはず)のほうが多いことからセットで行えることは重要かと思います。併せてHBVもできればいいと思います。HBVはワクチンもあることを広報されてもいいかもしれません。 ・東北大病院外来での相談業務
		相談・カウンセリングの充実	
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	感染者対応 ・ひとつの感染症が診断されたことで診断を辞めずにセットで検査を進めていくような体制が必要と思われます。 ・今後、HIV陽性妊婦からの出産、認知症発症、脳血管障害でのリハビリなど多方面での連携が必要になります。医療従事者への教育が必要です。 ・治療継続の支援
		生活全般に亘る支援	

<委員名> 桑名 佳代子 委員

視点		基本施策	平成30年度及び令和元年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<p><平成30年度・令和元年度継続して実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ○所属大学における学群・研究科(博士前期課程・後期課程)における専門科目の授業(通年) ○「こどもの夢ネットワーク」(みやぎの社会的養護を考える)の研修会(2回/年)における思春期問題への対応 ○科学研究費助成事業(基盤研究(C)2016年度～2019年度)「思春期・青年期女性の婦人科受診に至る判断と行動のプロセス」において、女性クリニックを受診した15～24歳の女性を対象に面接調査を実施 <p><平成30年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ○他大学(仙台市)の非常勤講師としての授業「母性保健」(前期) ○第13回ファミリーホーム全国研究大会 講師「子どもの性の問題について」(2018年8月4日) ○みやぎ里親支援センターけやき主催「思春期のこころとからだ講座」(高校生の親子を対象)(2018年8月) ○養育里親更新研修 講師「セクシュアリティの発達と対応」(2018年9月8日) ○テキスト「女性の健康とケア」2019年度版 第7章セクシュアルヘルス 「4.健康教育としての性教育」執筆、日本看護協会出版会(2019年2月発行) <p><令和元年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ○科学研究費助成事業(基盤研究(C)2019年度～2021年度)「社会的養護のリービングケアにおける『性の自立』を支援する健康教育プログラムの開発」にて、第38回日本思春期学会学術集会において「児童養護施設のリービングケアにおける児童指導員・保育士の『性に関する課題』の認識」を発表
		学校における感染症教育	
視点2	検査・相談の充実	相談・カウンセリングの充実	<p><平成30年度・令和元年度継続して実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学生からの相談(随時)→必要時に受診・検査を勧め、医療・検査機関の紹介および情報提供 ○社会的養護における職員・親子からの相談(随時) ○高校生からのメール相談→必要時に受診・検査を勧め、医療・検査機関の紹介および情報提供

<委員名> 古賀 詔子 委員

視点		基本施策	平成30年度及び令和元年度の取り組み(今後の計画含む)
視点 1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	○高等学校・専門学校等の生徒を対象にした性教育講演を学校の依頼により行う。 ○学校医を担当する2校において、希望生徒の個別相談を行い、必要があれば適した医療機関の受診を勧める。
		学校における感染症教育	
視点 2	検査・相談の充実	検査体制の充実	○婦人科一般診療として行う。
		相談・カウンセリングの充実	
視点 3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	○婦人科一般診療として行う。
		生活全般に亘る支援	

<委員名> 齋藤 敏典 委員

視点		基本施策	平成30年度及び令和元年度の取り組み(今後の計画含む)
視点 1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	宮城県泌尿器科医会が窓口になって各方面からの要望を受け付けている。
		学校における感染症教育	
視点 2	検査・相談の充実	検査体制の充実	保険診療内で行っている。
		相談・カウンセリングの充実	
視点 3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	専門の診療科や医療機関への紹介を含めて支援する。
		生活全般に亘る支援	

<委員名> 守末 紀生 委員

視点		基本施策	平成30年度及び令和元年度の取り組み(今後の計画含む)
視点 1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<平成30年度・令和元年度> ①HIV検査普及週間における啓発 学校内への啓発ポスター設置・カードの学生への配布 ②「世界エイズデーせんだいキャンペーン」 学校内への啓発ポスター設置・カードの学生への配布 ③美容師養成施設在籍学生は、美容師試験の学科科目において履修「衛生管理」教科で学習
		学校における感染症教育	

視点		基本施策	平成30年度及び令和元年度の取り組み(今後の計画含む)
視点 1	正しい知識の 普及	啓発活動・情報提供	<p><令和元年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・HIV検査普及週間について、文科省からの文書を職員に回覧し、HIV・エイズに対する正しい知識の普及啓発の必要性についての理解をお願いしました。 ・学校保健委員会において、会議に出席していただいた委員の皆様にご感染防止の必要性について関心を持って頂きたいと考え、本校での今年度の取組(学校における感染症教育の内容)について話題提供しました。
		学校における感染症教育	<p><令和元年度></p> <p>(1) 感染症予防のための保健指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ① テーマ 「けがの手当」 ② 実施期間 春の発育測定のための保健指導の時間 ③ 対象児童 2年生以上(1年生は保健室の利用の仕方について指導) ④ 指導内容 出血を伴うけが(擦り傷や切り傷、鼻血など)の手当は、感染予防のために自分で行う。 友達の血液には触れない。 けがの手当てが難しい場合は、大人を呼んで助けてもらう。 ⑤ 指導後の評価 保健指導後の感想が多かった内容は以下のとおりです。 「出血しているけがの手当は、自分でしたい」 「血液の中には、バイキン(病原体など)がいることを初めて知った」 「困った時は大人を呼びたい」 これらの感想から、今回の保健指導において、これだけは覚えてほしいと設定した「感染予防のために、自分のけがの手当は自分ですることの大切さ」を理解できたのではないかと思います。 ⑥ 今後の予定 1年生も含めて、知識の定着に向けて再度、秋の発育測定において、「けがの手当」の保健指導を実施する予定です。 <p>(2) 基本理念の確立に向けた保健学習</p> <p>感染症の予防と蔓延防止には、自他を大切にすることが大切と考えます。そこで、5年生の保健学習のカリキュラムデザインを行い、5年生担任と養護教諭によるTT方式で、授業に取り組むことにしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 単元名「心の健康」 ・指導内容 心は様々な経験を通して発達する。 心の状態と体の状態は互いに影響し合う。 誰にでも不安や悩みはあるが、適切な方法で対処できる。 ② 基本理念との関連 心が健康であると、不安や悩みへの適切な対処ができることを学習することにより、心を健康にする生活のあり方を積極的に考えるのではないかと思います。そのため「心の健康」の授業で習得した知識とその活用は、今後の感染症の予防と蔓延防止にプラスの影響を与えるのではないかと考えます。 今回は、様々な場面で、衝動的な行動の抑制と正しい判断のためには「心の健康」が大切であることを理解してほしいとの願いを込めて、「心の健康」のカリキュラムデザインを行いました。 ③ 今後の予定 後期の保健学習も5年生担任と養護教諭によるTT方式で実施予定 単元名「けがの防止」 ・指導内容 けがの発生要因と各場面での事故防止対策 ・感染症予防との関連 「けがの手当の仕方」の授業において、今年度の保健指導の知識を活かして、感染防止対策の知識の定着ができるようなカリキュラムデザインを行いたいと考えています。

<委員名> 佐藤 紀子 委員

視点		基本施策	平成30年度及び令和元年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<平成30年度・令和元年度 継続して実施(予定)> ○思春期保健健康教育の実施(宮城県助産師会・若林区保健センターと連携) ・毎年11月に中学3年生を対象に実施 ・助産師さんからの「性感染症の予防」についての講話 ・保健師さんからの「保健センターの役割」についての紹介 ・妊婦シミュレーターを使用した「妊婦体験活動」 ・赤ちゃん人形を使用した「育児体験活動」
		学校における感染症教育	

<委員名> 徳武 由美 委員

視点		基本施策	平成30年度及び令和元年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<平成30年度・令和元年度 継続して実施> ・宮城野区保健福祉センター保健師による、生徒に対するの保健講話の実施 ・世界エイズデーにあわせて、啓発ポスターの掲示
		学校における感染症教育	

<委員名> 太田 貴 委員

視点		基本施策	平成30年度及び令和元年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	■WEBサイト「仙台HIVネット」の運営(健康安全課との協働) ■community center ZELフリーペーパーでの情報提供 ■HIV陽性者スピーカーによる研修会「HIV陽性者と語ろう」実施(平成30年度) ■Living Together in SENDAI(HIV陽性者や周りの人が書いた手記の朗読会)開催(平成30年度) ■せんだいレインボーDayでブース出展(平成30年度) ■仙台プライドジャパン2019でブース出展(令和元年度) ■出前講座:八木山中学校(平成30年度)
		学校における感染症教育	
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	■HIV検査担当者研修会 ■仙台市エイズ即日検査会広報協力(MSM向けポスター、カード、アプリケーション広告) ■「仙台HIVネット」検査情報広報(MSM向けアプリケーション広告) ■男性限定検査イベントin仙台広報協力(MSM向けポスター、カード、アプリケーション広告)(令和元年度) ■THC電話相談(毎週土曜18:00-21:00)(令和元年6月より第2・第4土曜に変更) ■community center ZELでの相談対応
		相談・カウンセリングの充実	
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	■THC電話相談(毎週土曜18:00-21:00)(令和元年6月より第2・第4土曜に変更) ■community center ZELでの相談対応 ■HIV陽性者スピーカーによる研修会「HIV陽性者と語ろう」実施(平成30年度)
		生活全般に亘る支援	

視点		基本施策	平成30年度及び令和元年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<p>平成30年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○HIV陽性者の各種研修会、大学講義等への講師派遣 語り部として、薬害エイズや過去の経験、今の心境や思い等を、必要に合わせてHIV陽性者の現状と課題、治療、就労、周囲との関係、参加者への要望等を伝えている。 ○京都大学社会疫学分野 名古屋大看護学部 HIVサポートリーダー養成研修(2回) 仙台市エイズ対策職員研修会に派遣 ○電話相談による情報提供、HIV検査の受検勧奨 ○電話相談(原則HIV陽性者向け)に入った際に感染不安者等には情報提供及び受検勧奨 ○アウトリーチ活動 広島市職員と共に、ゲイバー(MSM向け)等広島周辺飲食店への啓発資料の配布(2回) ○第32回日本エイズ学会において、これまで10年間継続してきたNPOと行政・職能団体との連携によるイベント検査の取り組みについて発表・報告(平成30年12月大阪) <p>令和元年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○HIV陽性者による各種研修会、大学講義等への講師派遣 新潟大医学部他4回予定 ○電話相談時の情報提供及び受検勧奨 ○啓発資料、イベント資料を作成し、市職員と共に商業施設等へアウトリーチ
		学校における感染症教育	<p>令和元年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○HIV陽性者による各種研修会、大学講義等への講師派遣 新潟大医学部他4回予定 ○電話相談時の情報提供及び受検勧奨 ○啓発資料、イベント資料を作成し、市職員と共に商業施設等へアウトリーチ
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	<p>平成30年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○広島県、広島市、広島県臨床検査技師会との共催による即日検査イベントの開催 平成30年12月8日 14:00～17:30 広島市中心部繁華街にある民間クリニック近隣のイベントスペースで啓発キャンペーンも同時実施し、検査会場へ誘導 受検者HIV46名(全員陰性) 梅毒41名(陽性1名) <p>令和元年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○広島市主催のHIV検査普及週間における臨時HIV・梅毒検査へのスタッフ派遣 令和元年6月7日(金)18:00～20:00 広島市中保健センター 受検者18名(HIV・梅毒全員陰性) ○広島県、広島市、広島県臨床検査技師会、りょうちゃんず共催による即日検査イベントの実施(現在、関係機関を含めて調整中) NPOが加わることで、行政の実施者目線と違う視点で、MSM等への配慮や受検する側の不安対応など、受検者側に寄り添った検査環境を提供。また、協働作業によりスタッフの意識向上とスタッフ間の連携が強くなり、顔の見える関係の中で地域のHIV対策の協働が可能となっている。さらに「この時期にいつもやっているのだから受けに来た」と市民の認知もされている。
		相談・カウンセリングの充実	<p>令和元年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電話相談は継続 日時・時間変更なし。 特記 HIVが死の病と言われなくなり、告知時の説明により大きなパニックは見られなくなった。しかし、HIVの不安はそれぞれにあり、誰にでも話せる環境や病ではない。その時に、専門家以外の同じHIV陽性者と共有できることも、できないことも含めて話せるのがこの電話相談である。ぜひ相談電話番号をHPや冊子、関係者等へも紹介されたい。
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	<p>平成30年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○HIV陽性者向け電話相談 090-7993-9447(週2回 日・木 12:00～19:00) 結果:108日 28事例 42件 薬害HIV被害者はHIV感染よりもC型肝炎の悪化他、各種がん化、HIV関連疾患の併発、治療薬相互作用による治療制限、血友病性関節症の悪化、患者及び親の介護問題等、課題が山積。障老介護、福祉施設や福祉サービスの活用・相談等、医療以外の支援が必要になっている。性感染者は、告知時に適切な情報提供を受け、極端なパニック事例はなかった。しかし、周囲に話せる人がいない、相談できない等、家族やパートナー、職場等周囲の人間関係や将来の生活に不安を語る。正しい情報の提供と心理的支援が受けられる、話せる環境、話しても良いと思える場が必要となっている。 <p>令和元年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電話相談は継続 日時・時間変更なし。 特記 HIVが死の病と言われなくなり、告知時の説明により大きなパニックは見られなくなった。しかし、HIVの不安はそれぞれにあり、誰にでも話せる環境や病ではない。その時に、専門家以外の同じHIV陽性者と共有できることも、できないことも含めて話せるのがこの電話相談である。ぜひ相談電話番号をHPや冊子、関係者等へも紹介されたい。
		生活全般に亘る支援	<p>令和元年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電話相談は継続 日時・時間変更なし。 特記 HIVが死の病と言われなくなり、告知時の説明により大きなパニックは見られなくなった。しかし、HIVの不安はそれぞれにあり、誰にでも話せる環境や病ではない。その時に、専門家以外の同じHIV陽性者と共有できることも、できないことも含めて話せるのがこの電話相談である。ぜひ相談電話番号をHPや冊子、関係者等へも紹介されたい。